

令和6年度春（令和6年 4月）入学
令和5年度秋（令和5年10月）入学

大学院工学研究科（博士後期課程）
先端工学専攻

学生募集要項

日程表

・ 令和6年度春入学

	日 程	
	第1次募集	第2次募集
出願期間	令和5年7月 3日(月) ～ 令和5年7月 7日(金)	令和6年1月15日(月) ～ 令和6年1月19日(金)
試験日	令和5年8月25日(金)	令和6年3月 1日(金)
合格発表	令和5年9月 1日(金)	令和6年3月 6日(水)

・ 令和5年度秋入学

	日 程
出願期間	令和5年7月3日(月)～令和5年7月7日(金)
試験日	令和5年8月25日(金)
合格発表	令和5年9月 1日(金)



滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

出願にあたっての個人情報の取り扱いについては、下記のとおりとします。

本学が保有する個人情報は、「滋賀県個人情報保護条例」ならびに「公立大学法人滋賀県立大学の保有する個人情報の保護等に関する規程」等により関係法令を遵守し、出願時に大学が取得した氏名、住所その他の個人情報は、下記の目的以外には利用いたしません。

- ① 入学者選抜（出願処理、受験票発送、試験実施、成績処理等）、合格通知、入学手続案内、入学者選抜方法の調査・研究等の入試事務および付随する業務
- ② 合格者のみ入学に伴う教務事務（学籍、修学指導等）、学生支援事務（健康管理、奨学金申請、後援会等）、授業料等の収納事務および付随する業務

また、上記事務処理の一部を外部に委託し、個人情報を受託業者に提供した場合は、関係法令等により、個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止、その他個人情報の適切な管理に必要な措置に万全を期します。

[注意]

- ・ 問い合わせがあっても、本人以外には志願者の氏名・住所その他の個人情報は一切お知らせできません。
- ・ 駅、バス停、大学周辺で合否連絡・下宿案内等と称して個人情報を収集していることがあります。本学ではそのような行為は一切行っていませんので注意してください。

※新型コロナウイルス感染状況等により、本募集要項の記載事項から変更がなされる場合は、本学のホームページ<https://www.usp.ac.jp/nyushi/news/>にて随時お知らせしますので、ご注意ください。

目 次

I 研究科のアドミッションポリシーおよび入学者選抜方法	
工学研究科 先端工学専攻	1
II 研究科の概要	
1. 研究科の構成	2
2. 教育研究の特色	2
III 令和6年度春（令和6年4月）入学	
1. 募集人員	4
2. 出願資格	4
3. 選抜方法および試験日程等	5
4. 出願書類	6
（別表）研究調書等	8
5. 出願手続	9
6. 合格発表	9
7. 出願にあたっての注意事項	9
8. 入学手続	10
9. 初年度納付金	11
IV 令和5年度秋（令和5年10月）入学	
1. 募集人員	12
2. 出願資格	12
3. 選抜方法および試験日程等	13
4. 出願書類	13
（別表）研究調書等	15
5. 出願手続	16
6. 合格発表	16
7. 出願にあたっての注意事項	16
8. 入学手続	17
9. 初年度納付金	17
V 研究内容と担当教員	
1. 研究内容	19
2. 講義等の内容	21

I 研究科のアドミッションポリシーおよび入学者選抜方法

工学研究科 先端工学専攻（博士後期課程）

先端工学専攻は、21世紀の高度化した工業技術の進展や環境問題の解決に貢献できる人材を養成します。そのために、学問の基礎と応用の理解と実践を重視し、サステイナブル社会を目指し、産業や環境技術の進展に貢献する先端材料の開発、機械全体を一つのシステムとして環境や人間までも統合化する技術や理論の構築、さらに電気・電子・情報工学を融合させた領域における新たな知見・技術の創成、これらの実現を目標とした教育・研究を行います。この教育・研究目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像
<p>① 材料科学、機械システム工学、電子システム工学のいずれか、およびその関連分野に関する深い学識に裏打ちされた幅広い知識および視野を身につけられる人（知識・理解）</p> <p>② 材料科学、機械システム工学、電子システム工学のいずれか、およびその関連分野において、社会にとって有意義な新規課題を見出し、その研究に自らの手法を提案して取り組み、一定の制約の下で合理的に課題を解決できる能力を身につけられる人（技術・技能、思考・判断）</p> <p>③ 自らの行った研究について、その課題の重要性および研究成果の学術的・工学的意義を国内外で発表できる能力を身につけられる人（技術・技能、興味・関心）</p> <p>④ 自らの行った研究について、その内容を科学的・論理的かつ判り易くまとめ、社会に対して説明できる能力を身につけられる人（技術・技能、興味・関心）</p>
2. 入学者選抜の基本方針
<p>先端工学専攻における学びの基礎となる材料科学系、機械システム工学系、電子システム工学系のいずれかの知識・理解力と技術・技能、および思考・判断力を有し、先端工学専攻の教育研究に興味・関心を持ち、自己の能力向上を目指す学生を選抜します。</p>
3. 選抜方法
<p>修士論文等の審査および面接の結果を総合して選考します。知識・理解と技術・技能をみるため修士論文等の研究論文の審査を行います。また、思考・判断、興味・関心をみるため、面接を行います。この両者の結果を総合して選考します。</p>

II 研究科の概要

本工学研究科は、博士前期課程における材料科学専攻と機械システム工学専攻および電子システム工学専攻を基礎として、博士後期課程では三者を融合した先端工学専攻を置いている。

環境問題の解決と 21 世紀の高度化した工業材料の進展に貢献する先端材料の開発、また、機械全体を一つのシステムとしてとらえ、その機能、効率のみならず、リサイクル、人間、環境までも統合化し、あるいは電気・電子・情報の幅広い観点から、持続可能な社会に向けた機能的電子システムの創生につながる教育・研究を行う。

1. 研究科の構成

先端工学専攻

教育課程の編成

工学研究科において設置する博士後期課程は、現在の博士前期課程における教育研究の一層の深化を図ることとしている。このため、材料科学専攻（博士前期課程）と機械システム工学専攻（博士前期課程）および電子システム工学専攻（博士前期課程）を基礎として、三者を融合した博士後期課程の先端工学専攻を置く。

本博士後期課程では、地域産業界における高度研究開発拠点として、博士前期課程と密接な関係を保ちながら、公的試験研究機関および地域産業界との連携を促進する。

また、産・官・学の連携による研究者相互の知的融合や協同を通じて、高度な学問的見識や研究開発能力に加えて豊かな人間性をも兼ね備えた人材の養成を図る。

2. 教育研究の特色

- ① 本専攻では、博士前期課程における材料科学・機械システム工学・電子システム工学の最先端の学術的研究を踏まえて、人間と環境に適した最先端材料や知的・高機能な機械の創出と応用、あるいは持続可能な社会に向けた機能的電子システムの創生のための独創的研究を推進し、それらの産業への応用を目指す。
- ② 本専攻では、教育研究において、より広い視野に立つての総合力をもたせるために、専攻を網羅した基礎的・先駆的な研究についての講義および演習科目を配する。そのため、必修科目として、先端工学特論、先端工学特別演習および先端工学特別研究を設ける。また、選択科目として、無機材料特論、有機材料特論、機械工学特論、機械システム工学特論、電子システム特論および電子情報特論を設ける。
- ③ 博士前期課程での教育研究を基盤として、より高度で学術的な専門教育を行うとともに、それらの知識を実践的に掌握させる実験・実習を重視した教育研究を行う。
- ④ 教育を充実するため、講義および特別演習においては、独創的かつ世界的な研究を行っている研究者、企業の第一線で活躍している技術者によるセミナーを随時開催し学生に聴講させる。
- ⑤ 本学産学連携センターと連携した教育研究を推進し、地域産業界の科学技術研究の活性化を支援する。

- ⑥ よりグローバルな大学院教育と学術的研究を展開するために、外国人留学生の受け入れ、外国を含む他大学院との連携を進める。特に、科学技術の高度な進歩にも的確に対応でき、実際的な分野についての教育研究が実施できるように、工業技術総合センターなど県立の試験研究機関との連携を図る。

Ⅲ 令和6年度春（2024年4月）入学

1. 募集人員

専攻	募集人員	
先端工学専攻	第1次募集	第2次募集
	3人	若干名

2. 出願資格

- (1) 修士の学位を有する者および令和6年3月31日までに取得見込みの者(注1)(注2)
- (2) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者および令和6年3月31日までに授与される見込みのある者(注1)(注2)
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者および令和6年3月31日までに授与される見込みのある者(注1)(注2)
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 文部科学大臣の指定した者〔平成元年文部省告示第118号〕(注3)
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年3月31日までに24歳に達するもの(注4)

(注1) 修士の学位の種類は問いません。

(注2) 出願資格(1)、(2)、(3)のうち、修士の学位（または修士に相当する学位）を取得見込みで出願する場合、令和6年3月31日までに取得できないことが確定した場合には、合格しても入学資格を失うこととなります。

(注3) 出願資格(5)に該当する者とは、次の①または②に該当し、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者をいいます。

① 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者

② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者

(注4) 出願資格(6)に該当する者には、大学を卒業した者のほか、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者や外国大学日本校、外国人学校等の修了者等も含まれます。

出願資格(5)、(6)で出願しようとする者は、出願資格の事前審査を行うので、あらかじめ本学教務課（TEL 0749-28-8217・8243）へ申し出て、次の書類を提出してください。

提出書類：①出願資格認定申請書(任意様式)

②出願書類一式(F票および入学検定料を除く)

提出先等：提出期間 第1次募集 令和5年5月29日(月)～6月2日(金)まで(必着)

第2次募集 令和6年1月4日(木)～1月11日(木)まで(必着)

提出場所 滋賀県立大学 教務課

※ 持参による受付時間は午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。

審査の結果は、第1次募集は、令和5年7月3日(月)までに

第2次募集は、令和6年1月22日(月)までに

本人あてに通知しますので、出願資格を認定された者は、出願書類の受付期間内にF票および入学検定料を追加提出・振込してください。

3. 選抜方法および試験日程等

修士論文等の審査および面接の結果を総合して選考します。

第 1 次 募 集

試 験 日：令和5年8月25日(金)

試 験 場：滋賀県立大学

専 攻	試験科目	試験時間	試 験 の 内 容
先 端 工 学 専 攻	面 接	9:00～	専門に関する試問を含む。

第 2 次 募 集

試 験 日：令和6年3月1日(金)

試 験 場：滋賀県立大学

専 攻	試験科目	試験時間	試 験 の 内 容
先 端 工 学 専 攻	面 接	別途通知	専門に関する試問を含む。

4. 出願書類

出願に必要な書類		作成方法
A票	入学(進学)志願票	本学所定の様式によること。
修士学位論文		修士の学位論文またはこれに代わるものを1部 [ただし、本学を令和5年度に修了見込で進学を志望する者は提出不要]
研究調書等		別表(p.8)に記載の「研究・実務経験調書」、 「業績一覧書および論文等」、「研究計画書」
大学院学業成績証明書		◆出願資格(1)(2)(3)該当者◆ 出身大学院の学長または研究科長が作成し、厳封したもの [ただし、本学を令和5年度に修了見込で進学を志望する者は提出不要]
大学等学業成績証明書		◆出願資格(4)(5)(6)該当者◆ 最終学歴の大学等の長が作成し、厳封したもの
修士(博士前期)課程 修了(見込)証明書		◆出願資格(1)(2)(3)該当者◆ 出身大学院所定のもの [ただし、本学を令和5年度に修了見込で進学を志望する者は提出不要]
大学等卒業証明書		◆出願資格(4)(5)(6)該当者◆ 最終学歴の大学等所定のもの
学位授与証明書または学位授与申請に係る証明書		学校教育法第104条第4項の規定による学位授与の場合に提出する
住民票の写し		◆外国籍の者のみ提出◆ 市区町村長が発行したもので、在留資格を明記したもの(原本を提出すること。)
B票	出願承認書	官公庁および企業等に在籍している者で、入学後引続き在籍を希望する者は、本学所定の様式を使用し、当該所属長が作成した出願承認書を提出すること。
C票	住所票	可否の通知書等送付先の住所を記入すること。
D票	受験票	4cm、3cmの写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前3か月以内に撮影したもの)を写真貼付欄に貼付すること(受験票と写真票に貼り付ける写真は同一であること。)
E票	写真票	
F票	入学検定料振込 確認票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付してください。
G票	受験票返送用封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、 返信用の84円切手 を貼付すること。
H票	出願書類提出用封筒	「志望研究科・専攻・部門」欄、「志願者」欄に必要な事項を記入すること。

入学検定料 30,000円

- ・ 入学検定料は本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、第1次募集にあつては、令和5年6月26日(月)～7月7日(金)の期間に、第2次募集にあつては、令和6年1月15日(月)～1月26日(金)の期間に指定の金融機関に振り込んでください。
なお、ATM(現金自動預け払い機)は利用できません。
- ・ 振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は、入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。

(注)・A票～H票および「入学検定料振込依頼書」の各書類は、本冊子に添付されています。

- ・ 英語以外の外国語で書かれた書類については、日本語訳または英語訳を添付してください。

(別 表)

研 究 調 書 等

研 究 調 書 等	摘 要
<p>1 研究・実務経験調書(1-1票)</p> <p>これまでの研究の概要または実務経験・職務上の業績をまとめたもの 研究業績、実務経験・職務上の業績の両方にわたってもよい。</p>	<p>「卒業論文」および「修士論文(研究中のものを含む)」の題名(仮題も可)と概要(各200文字程度)を記載すること。社会人の方は、続いて、最終学歴後の研究内容および実務経験を現在まで年代順に記載すること。</p>
<p>2 業績一覧書(1-2票)および論文等</p> <p>学位論文・学術論文・学会発表・特許などの研究業績、および製品開発・システム開発・プログラム開発・書誌作成・プロジェクトへの参加など実務上の業績のリスト(共同開発の場合には何を分担したかを付記すること)。</p> <p>学位論文および主要学術論文は、別刷(または写し)を各1部添付すること。</p>	<p>学術論文(題名、全著者名、論文誌名)・学会発表(題名、全著者名、学術講演会名)・特許(発明の名称、全発明者名、特許・出願・特開番号など)・研究上の受賞などに分類して記載し、それぞれのなかで通し番号をつけること。なお各々について、10件以上ある場合は主なものを記載し、末尾に他〇件と記すこと。</p>
<p>3 研究計画書(1-3票)</p> <p>研究を希望する研究テーマについて、研究計画をまとめたもの。</p>	<p>和文2000字以内、あるいは英文600語以内(A4縦長・横書き)。</p>

(注) 1-1~3票の各書類は、本冊子に添付されています。

5. 出願手続

(1) 受付期間

第 1 次 募 集 令和 5 年 7 月 3 日(月)～7 月 7 日(金) (必着)

第 2 次 募 集 令和 6 年 1 月 15 日(月)～1 月 26 日(金) (必着)

出願にあたっては出願書類提出用封筒[H票]を用い、郵送または直接持参してください。

なお、**郵送による場合は必ず書留速達扱いとし、受付期間最終日必着**とします。

また、持参による受付時間は土日・祝日を除く午前 9 時から午前 11 時 30 分および午後 0 時 30 分から午後 5 時までとします。

(2) 願書提出先

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2 5 0 0

滋賀県立大学 教務課 TEL0749-28-8217・8243

6. 合格発表

第 1 次 募 集 令和 5 年 9 月 1 日(金) 午前 9 時

第 2 次 募 集 令和 6 年 3 月 6 日(水) 午前 9 時

事務局前の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者に合格通知書を送付します。(合格通知書は、発表後 10 日以内に送付します。)

また、合格者の受験番号を大学ホームページ (<https://www.usp.ac.jp>) に掲載します。

なお、電話等による可否の問い合わせには応じません。

7. 出願にあたっての注意事項

- (1) 一度受付をした出願書類および入学検定料は、理由のいかんを問わず返還しません。
- (2) 入学(進学)志願票に記載した氏名と学業成績証明書等の氏名とが異なる場合は、氏名を変更したことを証明する書類を出願書類とともに提出してください。
- (3) **出願期間を過ぎて到着したものは受け付けません**ので、郵送に関しては所要日数を十分に考慮して発送してください。
- (4) 入学を許可した後であっても、出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- (5) **出願受付後には出願事項の変更は認めません**。ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合には、下記まで連絡してください。

(6) 心身に障がい等がある入学志願者には、受験上および修学上の配慮を必要とするところがあるので、

第1次募集にあつては、**令和5年7月3日(月)**までに

第2次募集にあつては、**令和6年1月15日(月)**までに
連絡し、相談してください。

(7) 外国人は、入学時までに、「出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）」
において大学院入学に支障のない在留資格の取得が必要です。

(8) 入学日は、**令和6年4月1日(月)**になります。

(9) その他不明な点は、下記まで問い合わせてください。



8. 入学手続

入学手続に必要な書類は、合格通知書に同封して郵送します。

(なお、入学料は、入学手続と同時に納付することになります。)

(1) 入学手続期間

第1次募集 **令和6年2月13日(火)～2月16日(金) (必着)**

第2次募集 **令和6年3月8日(金)～3月15日(金) (必着)**

※持参による受付時間は、土日祝日を除く午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。

(2) **入学手続先** 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学 教務課 (TEL0749-28-8217・8243)

(3) 入学手続上の注意事項

- ① 期間内に手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。
- ② 一度受付をした入学手続書類および入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。

9. 初年度納付金

- (1) 入学料 ① 滋賀県内に住所を有する者 282,000円※
② その他の者 423,000円※

※令和5年度の額であり、改定されることがあります。

(注1) 滋賀県内に住所を有する者とは、次のいずれかに該当する者のことであり、「住民票の写し」の提出が必要です。

ア 入学の日の1年前(令和5年4月1日)から引き続き滋賀県内に住所を有する者

イ 入学の日の1年前(令和5年4月1日)から引き続き滋賀県内に配偶者または1親等の親族(生計を一にする者に限る)が住所を有する者

(注2) 本学大学院博士前期課程修了見込み者で、引続き博士後期課程に進学する者については、入学料は不要です。

- (2) 授業料 ① 年額535,800円

(令和5年度の額であり、改定されることがあります。なお、在学中に授業料が改定された場合には改定後の授業料が適用されます。)

- ② 納付方法 前期(納付期限5月29日)、後期(同11月27日)の2回の分納です(口座振替日(または納入期限)が金融機関の休業日にあたる場合は、その翌日が口座振替日(納入期限)となります)。

IV 令和5年度秋（令和5年（2023年）10月）入学

1. 募集人員

専攻	募集人員
先端工学専攻	若干名

2. 出願資格

- (1) 修士の学位を有する者および令和5年9月30日までに取得見込みの者(注1)(注2)
- (2) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者および令和5年9月30日までに授与される見込みのある者(注1)(注2)
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者および令和5年9月30日までに授与される見込みのある者(注1)(注2)
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 文部科学大臣の指定した者〔平成元年文部省告示第118号〕(注3)
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和5年9月30日までに24歳に達するもの(注4)

(注1) 修士の学位の種類は問いません。

(注2) 出願資格(1)、(2)、(3)のうち、修士の学位（または修士に相当する学位）を取得見込みで出願する場合、令和5年9月30日までに取得できないことが確定した場合には、合格しても入学資格を失うこととなります。

(注3) 出願資格(5)に該当する者とは、次の①または②に該当し、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者をいいます。

① 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者

② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者

(注4) 出願資格(6)に該当する者には、大学を卒業した者のほか、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者や外国大学日本校、外国人学校等の修了者等も含まれます。

出願資格(5)、(6)で出願しようとする者は、出願資格の事前審査を行うので、あらかじめ本学教務課(TEL 0749-28-8217・8243)へ申し出て、次の書類を提出してください。

提出書類：①出願資格認定申請書(任意様式)

②出願書類一式(F票および入学検定料を除く)

提出先等：提出期間 令和5年5月29日(月)～6月2日(金)まで(必着)

提出場所 滋賀県立大学 教務課

※ 持参による受付時間は午前9時から午前11時30分および午後0時30分
から午後5時までとします。

審査の結果は、令和5年7月3日(月)までに、本人あてに通知しますので、出願資格を認定された者は、出願書類の受付期間内にF票および入学検定料を追加提出・振込してください。

3. 選抜方法および試験日程等

修士論文等の審査および面接の結果を総合して選考します。

試 験 日：令和5年8月25日(金)

試 験 場：滋賀県立大学

専 攻	試験科目	試験時間	試 験 の 内 容
先 端 工 学 専 攻	面 接	9:00～	専門に関する試問を含む。

4. 出願書類

出願に必要な書類	作 成 方 法
A 票 入学(進学)志願票	本学所定の様式によること。
修 士 学 位 論 文	修士の学位論文またはこれに代わるものを1部
研 究 調 書 等	別表(p.15)に記載の「研究・実務経験調書」、 「業績一覧書および論文等」、「研究計画書」
大学院学業成績証明書	◆出願資格(1)(2)(3)該当者◆ 出身大学院の学長または研究科長が作成し、厳封したもの
大学等学業成績証明書	◆出願資格(4)(5)(6)該当者◆ 最終学歴の大学等の長が作成し、厳封したもの
修士(博士前期)課程 修了(見込)証明書	◆出願資格(1)(2)(3)該当者◆ 出身大学院所定のもの

	大学等卒業証明書	◆出願資格(4)(5)(6)該当者◆ 最終学歴の大学等所定のもの
	学位授与証明書または学位授与申請に係る証明書	学校教育法第104条第4項の規定による学位授与の場合に提出する
	住民票の写し	◆外国籍の者のみ提出◆ 市区町村長が発行したもので、在留資格を明記したもの(原本を提出すること)
B票	出願承認書	官公庁および企業等に在籍している者で、入学後も引続き在籍を希望する者は、本学所定の様式を使用し、当該所属長が作成した出願承認書を提出する。
C票	住所票	合否の通知書等送付先の住所を記入すること。
D票	受験票	4 cm、3 cmの写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前3か月以内に撮影したもの)を写真貼付欄に貼付すること(受験票と写真票に貼り付ける写真は、同一であること)
E票	写真票	
F票	入学検定料振込確認票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付してください。
G票	受験票返送用封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、 返信用の84円切手 を貼付すること。
H票	出願書類提出用封筒	「志望研究科・専攻・部門」欄、「志願者」欄に必要事項を記入すること。
<p>入学検定料 30,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学検定料は本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、令和5年6月26日(月)～7月7日(金)の期間に、指定の金融機関に振り込んでください。 なお、ATM(現金自動預け払い機)は利用できません。 振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は、入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。 		

- (注)・A票～H票および「入学検定料振込依頼書」の各書類は、本冊子に添付されています。
- 英語以外の外国語で書かれた書類については、日本語訳または英語訳を添付してください。

(別 表)

研 究 調 書 等

研 究 調 書 等	摘 要
<p>1 研究・実務経験調書(1-1票)</p> <p>これまでの研究の概要または実務経験・職務上の業績をまとめたもの 研究業績、実務経験・職務上の業績の両方にわたってもよい。</p>	<p>「卒業論文」および「修士論文(研究中のものを含む)」の題名(仮題も可)と概要(各200文字程度)を記載すること。社会人の方は、続いて、最終学歴後の研究内容および実務経験を現在まで年代順に記載すること。</p>
<p>2 業績一覧書(1-2票)および論文等</p> <p>学位論文・学術論文・学会発表・特許などの研究業績、および製品開発・システム開発・プログラム開発・書誌作成・プロジェクトへの参加など実務上の業績のリスト(共同開発の場合には何を分担したかを付記すること)。 学位論文および主要学術論文は、別刷(または写し)を各1部添付すること。</p>	<p>学術論文(題名、全著者名、論文誌名)・学会発表(題名、全著者名、学会講演会名)・特許(発明の名称、全発明者名、特許・出願・特開番号など)・研究上の受賞などに分類して記載し、それぞれのなかで通し番号をつけること。なお各々について、10件以上ある場合は主なものを記載し、末尾に他〇件と記すこと。</p>
<p>3 研究計画書(1-3票)</p> <p>研究を希望する研究テーマについて、研究計画をまとめたもの。</p>	<p>和文2000字以内、あるいは英文600語以内(A4縦長・横書き)。</p>

(注) 1-1~3票の各書類は、本冊子に添付されています。

5. 出願手続

(1) 受付期間

令和5年7月3日(月)～7月7日(金) (必着)

出願にあたっては出願書類提出用封筒[H票]を用い、郵送または直接持参してください。

なお、**郵送による場合は必ず書留速達扱いとし、受付期間最終日必着**とします。また、持参による受付時間は午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。

(2) 願書提出先

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

滋賀県立大学 教務課 TEL0749-28-8217・8243

6. 合格発表

令和5年9月1日(金) 午前9時

事務局前の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者に合格通知書を送付します。(合格通知書は、発表後10日以内に送付します。)

また、合格者の受験番号を大学ホームページ(<https://www.usp.ac.jp>)に掲載します。

なお、電話等による合否の問い合わせには応じません。

7. 出願にあたっての注意事項

- (1) 一度受付をした出願書類および入学検定料は、理由のいかんを問わず返還しません。
- (2) 入学(進学)志願票に記載した氏名と学業成績証明書等の氏名とが異なる場合は、氏名を変更したことを証明する書類を出願書類とともに提出してください。
- (3) **出願期間を過ぎて到着したものは受け付けません**ので、郵送に関しては所要日数を十分に考慮して発送してください。
- (4) 入学を許可した後であっても、出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- (5) **出願受付後には出願事項の変更は認めません**。ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合には、下記まで連絡してください。
- (6) 心身に障がい(学校教育法施行令第22条の3に定める障がいの程度)がある入学志願者は、受験上および修学上特別の配慮を必要とすることがあるので、令和5年7月3日(月)までに連絡し、相談してください。

- (7) 外国人は、入学時まで、「出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）」において大学院入学に支障のない在留資格の取得が必要です。
- (8) 入学日は、**令和5年10月1日(日)**になります。
- (9) その他不明な点は、下記まで問い合わせてください。



8. 入学手続

入学手続に必要な書類は、合格通知書に同封して郵送します。

(なお、入学料は、入学手続と同時に納付することになります。)

(1) 入学手続期間

令和5年9月4日(月)～9月8日(金) (必着)

※持参による受付時間は、土日祝日を除く午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。

(2) **入学手続先** 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
滋賀県立大学 教務課 (Tel.0749-28-8217・8243)

(3) 入学手続上の注意事項

- ① 期間内に手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。
- ② 一度受付をした入学手続書類および入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。

9. 初年度納付金

- (1) **入学料** ① 滋賀県内に住所を有する者 282,000円
② その他の者 423,000円

(注) 滋賀県内に住所を有する者とは、次のいずれかに該当する者のことであり、「住民票の写し」の提出が必要です。

ア 入学の日の1年前(令和4年10月1日)から引き続き滋賀県内に住所を有する者

イ 入学の日の1年前(令和4年10月1日)から引き続き滋賀県内に配偶者または1親等の親族(生計を一にする者に限る)が住所を有する者

(2) 授業料 ① 年額 535,800 円

(令和 5 年度は後期の半年分で、267,900 円です。)

(在学中に授業料が改定された場合には改定後の授業料が適用されます。)

- ② 納付方法 前期(納付期限 5 月 29 日)、後期(同 11 月 27 日)の 2 回の分納です(口座振替日(または納入期限)が金融機関の休業日にあたる場合は、その翌日が口座振替日(納入期限)となります)。

V 研究内容と担当教員

先端工学専攻

1. 研究内容

教育研究分野	教員名	研究内容
材料科学領域		
金属材料	教授 仲村 龍介 准教授 宮村 弘	鉄鋼や金属材料の強度および機能性の発現にはナノおよびマイクロ組織の形成が鍵を握る。組織形成を司る原子拡散の挙動を解明し、材料設計の指針を得る研究を行っている。また、化学的および物理的な反応場を利用して、金属・半導体・酸化物の低次元材料（ナノ粒子や薄膜）のナノ組織や形態を制御する新たな手法を研究開発している。
セラミックス材料	教授 松岡 純 准教授 山田 明寛	ガラスの力学物性やガラスとその融液の熱物性・光物性・レオロジー特性などについて、原子レベルでの機構と組成・構造依存性に注目し、固体物理と無機化学を基に研究している。研究では、強結合ランダム構造特有の性質の解明と、ガラスの製造技術や信頼性向上への貢献を目指している。
エネルギー環境材料	教授 奥 健夫 准教授 秋山 毅 講師 鈴木 厚志	光・量子情報・エネルギーをキーワードとし、原子配列が調和した機能物質の設計・合成・評価・応用を通じて、人類・自然環境・社会に貢献することを目的としている。具体的には、太陽電池材料、量子情報材料、プラズモンナノ材料、電子線結晶学などに関する研究を行っている。
有機複合材料	教授 徳満 勝久 准教授 竹下 宏樹	有機複合材料の基礎物性、特に、高分子の構造と物性について研究しており、新しい機能を有する材料（環境対応やエネルギー材料含む）の創製を目指している。また、高分子の複合化による物性改質技術や、高分子液晶・高分子ゲルを含むナノサイズ・ナノ構造を有する有機・無機ハイブリット材料に関する研究を進めている。
高分子機能設計	教授 金岡 鐘局 准教授 谷本 智史 講師 伊田 翔平	高分子が潜在的に有する機能を見出し、その機能発現の原理を活用して、環境と調和する材料開発の実現を目指している。精密合成に基づいた多分岐高分子や3次元網目や高次構造の構築、天然高分子や無機物を素材とした複合材料の創製を行い、界面機能制御、分子認識、物質分離などを可能とする機能性材料に注目した研究を進めている。
有機環境材料	教授 北村 千寿 准教授 加藤 真一郎 講師 竹原 宗範	共役化合物の合成と光・電子機能の探索、生体触媒による機能性環境適合材料の開発をおこない、環境にやさしい新規有機物質の創製とその性質解明を研究目的としている。有機化学と生化学的側面から研究を進めている。
機械システム工学領域		
エネルギーと動力	教授 山根 浩二 准教授 河崎 澄	クリーンで高効率なエネルギー変換システムを目指して、エンジン内の燃焼機構の解明に加え、バイオディーゼル燃料などカーボンニュートラル燃料や次世代水素の利用に関する研究に加え、新しいエンジン燃焼法などの研究を行っている。

流体工学	教授 南川 久人 准教授 安田 孝宏	物体周りや管路内に発達する流れについて、実験とシミュレーションの両面から研究を行っている。対象は混相流や流体騒音にも及んでおり、ファインバブルの利用技術や物体の流体抵抗の低減などの実用的課題にも取り組んでいる。
材料力学	教授 田邊 裕貴 准教授 和泉 遊以	各種機械要素の高機能化、信頼性向上を目指して、セラミックスコーティングによる機械材料の改質とその評価、使用中に予想される破壊のメカニズム、損傷評価法や寿命推定法に関する研究を行っている。
機械ダイナミクス	教授 呉 志強 准教授 大浦 靖典	機械が発生する振動や騒音、機械の運動、生体の運動などを計測・解析・制御する技術を基礎にして、人間の特性や人間との関わりを考慮した機械の設計に関する研究を行っている。
メカトロニクス	教授 片山 仁志 准教授 山野 光裕 講師 西岡 靖貴	機械工学、電子工学、制御工学、ソフトウェア、高性能素材、空気圧アクチュエータなどの技術を利用し、移動ロボット、ロボットハンド、電動移動支援機器、福祉機器などに関する研究を行っている。
生産システム	教授 奥村 進 准教授 橋本 宣慶	環境負荷の低減を目的にした人工物の設計、人工物のライフサイクルの視点からの最適化、人工物の状態監視・診断、パラメータのロバスト設計、工学的技能の伝承、人工現実感による教育訓練など、生産および生産システムに関連する研究を行っている。
電子システム工学領域		
電子回路	教授 岸根 桂路 准教授 土谷 亮 講師 井上 敏之	高性能集積回路の設計手法に関する研究、集積化により高機能処理が実現可能となったFPGA等をベースとしたシステム制御の研究を行っている。対象・応用分野は通信・ネットワーク、高信頼制御モジュール、超低消費電力部品・機器などである。
デバイス工学	教授 柳澤 淳一 准教授 一宮 正義	半導体分野で培われてきた超微細加工技術のさまざまな分野への応用を試み、微細化により初めて発現する新たな機能を持った各種デバイスの研究・開発を行うと同時に、それらの特性の評価およびその手法について研究を行っている。
センシング工学	教授 作田 健 准教授 小林 成貴	今日の社会に欠かせないセンシング技術について、磁気計測による非破壊検査の高性能化、高機能化をめざしている。SQUIDによる極微小欠陥検出とその可視化、定量評価システムなどの研究開発を行っている。
パワーエレクトロニクス	教授 乾 義尚 准教授 坂本 眞一	環境汚染や地球温暖化等の地球環境問題や化石燃料の枯渇等のエネルギー問題を解決するために、燃料電池、二次電池、排熱利用発電、太陽エネルギー利用発電などの地球環境に優しい電気エネルギーの発生・変換・貯蔵技術の研究に取り組んでいる。
ネットワーク情報工学	教授 酒井 道 准教授 宮城 茂幸	ネットワーク社会における情報の発信・取得法およびデジタル情報解析の研究を行っている。メタマテリアルによるマイクロ波・光素子材料開発といったハード面と、各種センサによる人体・物体の検知と行動情報解析等のソフト面の両面において取り組んでいる。

<p>知能情報工学</p>	<p>教授 砂山 渡 准教授 服部 峻</p>	<p>知的なコンピュータ、ならびに人間がコンピュータを知的に使う支援に関わる人工知能分野の研究を幅広く進めている。データマイニング、情報可視化、スキル獲得支援、コミュニケーション支援、画像処理、複合現実感などに関する研究に取り組んでいる。</p>
---------------	-----------------------------	---

2. 講義等の内容

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
<p>先端工学特論</p>	<p>近年の工学の発展は、材料科学、機械システム工学および電子システム工学の分野を超えて、互いに融合する新たな先端工学分野が求められるようになってきている。さらに、これらの学問分野は従来の工学的手法と異なる創造的破壊を伴う新機軸の発想と実行が求められている。このため、実際の例をもとに、異なる工学分野を融合した先端工学という創造的学問体系について近年の工学的発展の背景をもとに理解させる。</p>
<p>無機材料特論</p>	<p>環境やエネルギー問題の解決につながる金属材料の高機能化、次世代のセラミックス材料の設計、エネルギー環境材料の応用を視野において、無機材料を高機能化し、新機能を付加するための作製プロセス、新材料の特性評価、物性と構造の相関性などを理論的および実践的成果をもとに理解させる。</p>
<p>有機材料特論</p>	<p>大量に廃棄されるプラスチックのリサイクルする技術、高分子材料の構造と物性、機能発現の原理を活用した外部刺激応答性材料の創生、光・電子機能を有する共役系有機化合物の合成、生物が作り出す有用物質の解析および反応の機構解明に関して体系的に学び、構造と性質の相関および機能発現のメカニズムを理解させる。</p>
<p>機械工学特論</p>	<p>環境と人間に融合した機械を開発・設計する技術を修得させる。エネルギー消費が少なくクリーンな動力システム、流体エネルギーの有効利用に向けた流れの予測・制御法、機械の長寿命化を目指した表面改質技術と寿命評価法を理解させる。</p>
<p>機械システム工学特論</p>	<p>将来の知的生産システムを視野におき、ネットワーク時代のCAD/CAMと知能化ソフトウェア、ロボシステム、ロボット等のハードウェアとその制御、非線形システムの解析方法を数学的理論によって理解させる。</p>
<p>電子システム特論</p>	<p>電子システム工学を支える種々の要素のうち、電気製品を動作させる電子回路、半導体等の電子デバイスの機能とその作製プロセス、発電や次世代エネルギーを扱うパワーエレクトロニクスについて、最新の研究成果を交えて講義する。</p>
<p>電子情報特論</p>	<p>電子工学や情報工学によって支えられる情報・通信技術およびその周辺技術について、最新の研究成果を交えて講義する。対象とする範囲は、デジタルシステム、情報システム、コンピュータハードウェア・ソフトウェア、複雑系ネットワーク、センシングシステムなどである。</p>
<p>先端工学特別演習</p>	<p>指導教員との議論を通じて、自立した研究者となるために必要な研究計画、遂行能力とその総合評価能力を培わせるとともに、先端工学の理論・実験等に関する特別演習を行う。</p>
<p>先端工学特別研究</p>	<p>自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を涵養するために、個別の研究課題について、指導教員との討論を行いながら博士論文作成のための理論・実験などに関する特別研究を行う。</p>



滋賀県立大学

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
TEL 0749-28-8217・8243 FAX 0749-28-8472
ホームページアドレス <https://www.usp.ac.jp/>
E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp

